

## 第7回高校生模擬裁判選手権 大会概要

### 1 本大会のねらい

- (1) 物事のとらえ方やそれを表現する方法を学び、刑事手続の意味や刑事裁判の原則、裁判員裁判の意義の理解を推進する。
- (2) 法教育に携わる教員と弁護士との交流を図る。

### 2 日時場所等

- (1) 実施日 2013年8月3日(土)
- (2) 実施場所 関東大会：東京地方裁判所，弁護士会館（東京／霞が関）  
関西大会：大阪地方裁判所，大阪弁護士会館（大阪／西天満）  
四国大会：高知地方裁判所  
中部・北陸大会：福井地方裁判所
- (3) その他 各大会優勝校による決戦は行わない。

### 3 出場校（大会別五十音順）

#### ○関東大会：8校

静岡県立浜松北高等学校（静岡）  
湘南白百合学園高等学校（神奈川）  
中央大学附属杉並高等学校（東京）  
東京都立小石川中等教育学校（東京）  
東京都立西高等学校（東京）  
山梨学院大学附属高等学校（山梨）  
早稲田大学高等学院（東京）  
早稲田大学本庄高等学院（埼玉）

#### ○関西大会：6校

京都教育大学附属高等学校（京都）  
京都府立嵯峨野高等学校（京都）  
同志社香里高等学校（大阪）  
奈良女子大学附属中等教育学校（奈良）  
西宮市立西宮東高等学校（兵庫）  
立命館宇治高等学校（京都）

#### ○四国大会：4校

愛光高等学校（愛媛）  
高知県立高知西高等学校（高知）  
徳島文理高等学校（徳島）  
香川県予選優勝校（香川）

○中部・北陸大会：6校

石川県立金沢二水高等学校（石川）  
金沢大学附属高等学校（石川）  
中京大学附属中京高等学校（愛知）  
福井県立大野高等学校（福井）  
福井県立金津高等学校（福井）  
福井県立藤島高等学校（福井）

#### 4 競技方法

教材集に示された証拠（証拠物や調書等）に基づき、出場校が検察側・弁護側の各立場に立って主張・立証活動を行う。シナリオどおりに読んで演じる模擬裁判ではない。

参加校は、あらかじめ決められた時間に従って主張の立証活動を行い、審査員が各参加校の立論及び立証の内容を評価して採点し、その総合得点で勝敗を決する。

いずれの学校も、検察側・弁護側どちらの立場でも競技を行う（例えば、第1試合検察側を担当した学校は、第2試合では弁護側を担当する。）。

#### 5 各チームの人員

1試合に必要な生徒数は、検察側、弁護側のいずれの立場でも最低3名である。

※本年度は、証人・被告人役を弁護士が行う（生徒は行わない。）こととする。

準備段階においては何人のチーム編成でも構わないが、大会当日試合に参加する（法廷内に入る）選手の人数は、検察官役・弁護人役それぞれ7名までの計14名以内とする。

#### 6 費用

大会参加費は無料。ただし、交通費、当日昼食費、諸雑費等は各学校負担とする。

#### 7 その他

##### (1) 準備活動

大会までに各校が行う準備は、

**【争点の確定→争点についての主張・立証方針の確定→証人尋問の準備】**となる。  
説明会実施後、各参加校が支援弁護士と協議の上、それぞれ独自に準備を行う。

##### (2) 登録

参加校は、2013年7月24日（水）までに、大会出場選手名（検察側・弁護側チーム構成）及び当日付添い教員を日弁連事務局（法制第一課）まで連絡する。

なお、予選を実施する地域については、予選終了後、速やかに連絡するものとする。

以上